Japan Society of Obstetrics and Gynecology

日本産科婦人科学会雑誌 ACTA OBST GYNAEC JPN Vol. 49, No. 8, pp. 525—576, 1997（平9，8月）

シンポジウム2

中高年女性の加齢による変化

座長 東京医科歯科大学教授 麻生武志
昭和大学教授 矢内原巧

麻生座長：只今からシンポジウム2を開始致します．座長を務めさせて頂きます昭和大学の矢内原先生と，私，東京医科歯科大学の麻生でございます．よろしくお願い致します．

本シンポジウムのテーマは中高年女性の加齢による変化ということでございます．すべての生命体は一度誕生致しますと，加齢のプロセスを進むという運命を担うことになります．これと同時に個体は，加齢の間に生殖 reproduction を営むことによりまして次の世代と継続性をもち続けることになります．この両者すなわち加齢と reproduction は表裏一体となった生命現象と考えることができると思います．

女性のライフサイクル，すなわち生涯における主な reproductive events をまとめてみました．本シンポジウムでは性成熟期以降の更年期，老年期に焦点を当て，この時期に生じる加齢による変化を論じることになります．日本女性の平均寿命が80歳を超え，人生の約3分の1を更年期以降に過ごすことになり，また65歳以上の人口の全人口に占める割合が急速に増加しつつある今日の状態をみますと，加齢現象を正しく理解し適切な医療を行う私たち産科婦人科医の役割は従来にも増して大きいと考えなければいけません．

加齢に伴う精神身体機能の主な変化をみてみますと，例えば記憶力は年齢とともに低下して物忘れを自覚するようになります．これが病的な状態にまで進行しますと，痴呆すなわち dementia を発症することになります．血管機能や脂質代謝の変化は高血圧，高脂血症から動脈硬化，心疾患へと，また加齢に伴う骨量の減少は骨粗鬆症，そして骨折へと進行するリスクをはらんでおります．また私たち産科婦人科領域に身近なものとしては，筋肉，結合組織の強度の低下が泌尿器，性器の下垂，脱，排尿障害につながることはご存じのとおりでございます．

このように加齢による変化は，時間軸に沿った連続的なパターンを示すとともに全身臓器，器官の機能形態の総合的な変化として把握すべきであるといえましょう．特に女性におきましては，閉経後に好発する障害の代表的なものを示してございますが，これに卵巣機能すなわち estrogen 産生の低下，そして消失が深く関連していることが明らかでございます．

本日のシンポジウムでは，まず「更年期における Hot flashe と骨代謝の変化の機序に関する研究—calcitonin 関連物質の関与—」を癌研究会附属病院の陳 瑞東先生に，次に「閉経による心血管系の変化及びその機序に関する研究」を九州大学の野崎雅裕先生に，続いて「エストロゲンの骨代謝における作用機序の解析—エストロゲンの低下と骨吸収の亢進との関わり—」を慶應義塾大学の太田博明先生に，そして「加齢による骨代謝の変化とエストロゲンの生理学的意義に関する研究」を横浜市立大学の五来逸雄先生に，それぞれご発表頂きます．

以上4人の先生方から，お一人30分のご講演を頂く予定でございます．それが済みましたあとで討論に入りたいと思いますので，よろしくお願い致します．

NII-Electronic Library Service